

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第22号

平成28年2月16日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

後村上帝、そして光源帝ら、南北両朝が同座した金剛寺

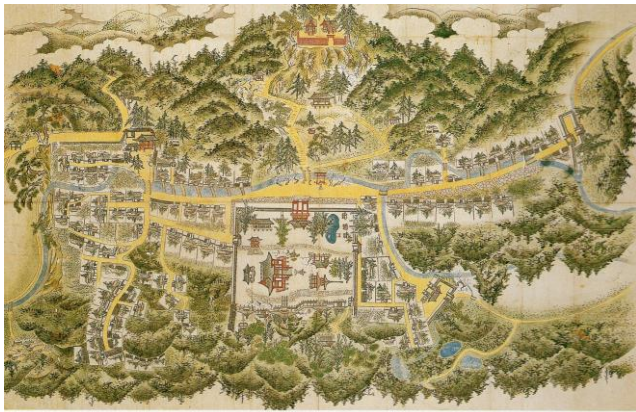
塔頭の一つ、摩尼院には楠木正成ゆかりの品が残る

忘れられない現地学習、雪の金剛寺

1月19日（火）、私たちの会は現地学習会で河内長野市の金剛寺と摩尼院を訪れた。

南海河内長野駅からバスで約20分。極寒の日、同寺を訪れる人は一人もいない中、ラッキーにもたまたま同寺に居合わせた河内長野市の地域文化遺産啓発専門員の尾谷雅比古さんのご案内で、北朝御座所となった奥殿や宝物殿等を見学することができた。

ただ、食事をする頃になると雪が降り出し、是も思い出づくり、と忘れられない現地学習となった。



金剛寺境内図

天野山金剛寺は奈良時代に行基が聖武天皇の勅願によって草創し、後に弘法大師の密教練行の霊域となったと伝わる。

しかし、平安時代の末には坊舎は傾き、寺運は衰微し、堂塔・伽藍は荒廃したが、高野山の阿観上人が入山し、現存の伽藍を復興した。

そして、さほど高くない山々が起伏している溪谷に位置し、和泉へ通じる河泉街道、紀見峠から高野山に通じる高野街道、河合寺、観心寺を経て大沢峠から紀伊大和に通じる五条街道と多くの街道が行き交い、千

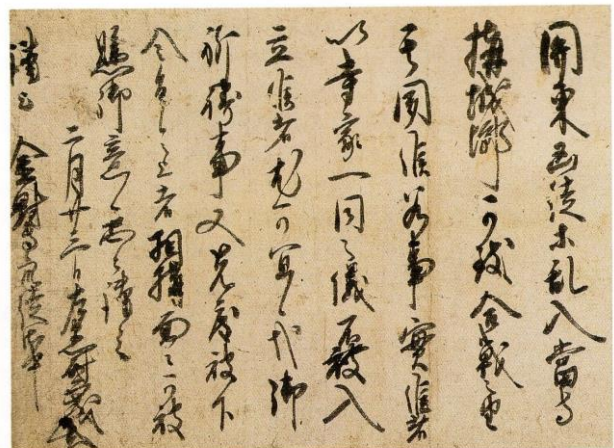
早、赤坂にもつながる。

四方に発展する交通網が開けていることから、この後続く南北朝時代には交通の要衝として政治の表舞台を支える歴史的役割を果たすことになる。

宝物殿に残る正成直筆書状

金剛寺には、楠木正成自筆書状（重要文化財）が残る。

関東凶徒等乱入当寺
構城郭可致合戦之由
其聞候、若事実候者
以寺家一同之儀不_レ被_レ入_レ
立候者尤可_レ宜_レ候哉、御
祈祷事又先度被_レ下_レ
令旨候之上者相構_レ面_レ可_レ被_レ
懸_レ御意候、恐_レ謹言
二月廿三日 左衛門尉正成（花押）
謹上 金剛寺衆徒御中



重文 楠木正成自筆書状

金剛寺が朝廷のために祈祷し、楠木正成が関東の凶徒金剛寺乱入の風聞に、寺家一同の力で防戦を願った

のは、後醍醐天皇が隠岐に流された後の最も苦しい時期であった。

楠木正成が金剛寺に「関東の凶徒等当寺に乱入し…」(写真)に始まる書状を送ってから1か月後、後醍醐天皇は隠岐脱出に成功する。

しかし、建武の新政が失敗し、延元元年楠木正成は兵庫湊川に散る。

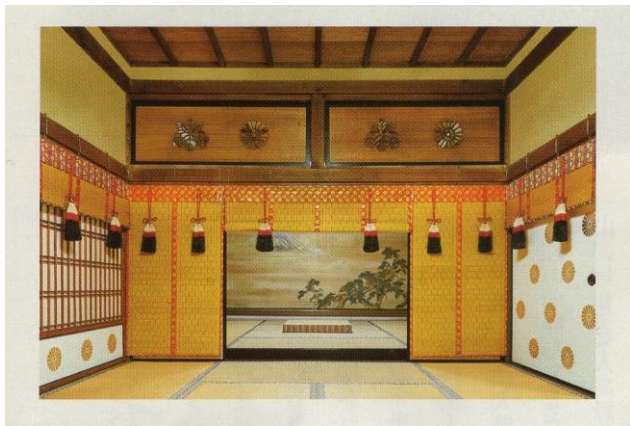
金剛寺には、この年7月14日修理の銘のある神像が三体あり、10月1日には後醍醐天皇が綸旨を下して金剛寺を勅願寺とする。この綸旨の中に、「皇統の長久を祈り奉るべし」の言葉が残るが、後醍醐天皇の発した綸旨の中でこの言葉を発しているのはこの一通のみである(金剛寺発行「金剛寺小史」より)。

摩尼院に後村上、観藏院に北朝三上皇

この金剛寺は、南北両朝が同座した珍しい寺院でもある。

後醍醐天皇の跡を継いだ後村上天皇は、正平9年、金剛寺に入り摩尼院・食堂を行宮とする。そして、この時すでに北朝の光源、光明、崇光の三上皇も観藏院を御座所としており、皇太子直仁親王も加え、南北両朝五人の皇族方を迎えた金剛寺の経済的負担は相当重かった。

後村上天皇は6年間、そして北朝方の四人は4年間、ここ金剛寺で過ごした。



↑ 奥殿(北朝御座所)

史料として貴重な禅恵の奥書

これら南北両朝を迎えて金剛寺の経済的負担の大きかった頃、同寺の正学頭を努めたのが禅恵で、多忙な中、読破し書写したおびただしい経典には、いずれもその奥書に年紀・禅恵の名・年齢が記されている。

これらの奥書にはまた、普通のものとは違い、社会情勢や金剛寺の状態などが書き添えてあって、文献史学の史料として大変貴重とされている。

禅恵は、行宮となった金剛寺の寺中坊々が一つ残らず公家・武士の陣営となり、かつ正平15年幕府軍が乱入し半数以上の坊を焼失した時期に、金堂・宝塔・

御影堂等を守り抜いて今に伝えたもので、動乱の世に生きた仏者像が伝わってくる。

禅恵奥書中有名な一つに「南無阿彌陀仏、今度合戦死去人をはじめとして、三世一切の衆生往生極楽せん」というのが

ある。正平19年没。

また、金剛寺には彫刻や絵画、文書・記録の他に多くの工芸品が伝わる。

化粧道具などを入れる手箱、多くの鏡、柄香炉や宝珠杵や宝珠鈴などの法具、黒漆塗りの三足食などに加え、腹巻や鎧、宝剣など。

腹巻は、鎌倉末期頃から武将もこれを着用するようになったといわれており、写真のように大袖の付いたものもあらわれた。

金剛寺には20数領の腹巻が伝わるが、その中には正成、正行ら楠一族の使用したものもあるのかもしれない。

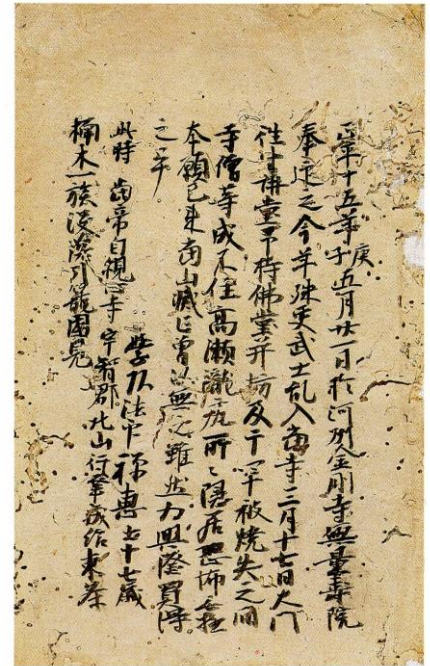
摩尼院、慶長年間の書院が今も

摩尼院は、正平9年から後村上天皇仮の宮居とされたところ。

また、摩尼院に残る書院は、慶長年間(1596~1614)のもので、昭和40年、重要文化財に指定された。ここでは、「書院は物入れに使うのではなく、ひざを曲げて入れ、机代わりに使うもので、障子は明り取りですよ」と、庵主さんから教わった。

蔵には、楠木正成の軍旗や後醍醐天皇御守り刀(子別れの短刀)等、多くの寺宝が残る。

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)



禅恵奥書



重文 黒韋威肩白腹巻 大袖付